様式Ｃ-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　21 年　6 月　11 日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2006～2008
課題番号：18320104
研究課題名（和文）　近世後期における地域ネットワークの形成と展開　日田広瀬家を中心に
研究課題名（英文）　The Formation and Development of Regional Networks during the Late Early Modern Japan : Focusing on Hita Hirose family

研究代表者
横山　伊徳（YOKOYAMA YOSHINORI）
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号　90143536

研究成果の概要：
天領豊後日田の広瀬家に伝わる未整理の史料群（大分県日田市・広瀬資料館所蔵「広瀬先賢文庫」）について文書構造を検討して目録を作成し、研究・教育に活用可能な状況を創り出した。また、同史料に基づく共同研究を実施し、近世後期から幕末維新期にかけての広瀬家を中心とする地域ネットワークの実態を、政治情報・経済情報・思想言説という、三つの視角から究明し、報告書にまとめた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2007 年度	2,800,000	840,000	3,640,000
2008 年度	3,300,000	990,000	4,290,000
年度			
年度			
総　計	9,400,000	2,820,000	12,220,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・日本史
キーワード：近世史、広瀬淡窓、広瀬旭荘、広瀬久兵衛、政治情報

１．研究開始当初の背景

近世史研究における地域社会の研究は、豪農論・中間的支配機構論（中間層論）・社会的権力論等を通じて、個別の農業・商工業経営のあり方と地域社会との関係として論じられてきた。

一方、本研究の前提となる九州大学による調査・研究によって、経営主体としての日田広瀬家についての分析も相当程度進み（『九州天領の研究』1976 年）、また、咸宜園（広瀬淡窓・旭荘）の思想家・教育者としての研究も、全集や前記九州大学の研究により一定の蓄積があった。

①掛屋として幕藩財政に関与してきた広瀬本家についての経済史的検討と、②広瀬淡窓以下が関わった咸宜園についての教育史・思想史的検討を、統合的に理解する課題が残されていた。

近年、こうした地域社会研究を進めて、「政治的・経済的主体の配置や関係構造」の解明の必要性が叫ばれるようになったため、本研究はこうした先端的な研究動向を踏まえ、広

瀬家・咸宜園をひとつの結節点、ハブとする九州地方の政治的・経済的・文化的ネットワークの動態を研究の対象としたのである。

２．研究の目的

本研究は、豊後日田の掛屋であった広瀬家の広瀬先賢文庫（大分県日田市、広瀬資料館）に所蔵される数万点の史料の調査・研究を通じて、近世後期の日田豪商がもつ、政治的・経済的・文化的ネットワークの形成と展開を明らかにし、近世後期から幕末維新期に至る地域的ネットワークの歴史的位置づけを試みるものである。

広瀬先賢文庫には、掛屋広瀬家の資料と咸宜園の資料・典籍を併せて数万点が保存されており、このうち遺稿などを中心とする家宝は中村幸彦・井上敏幸『広瀬先賢文庫目録』（1995 年）が完成し、また、所謂文書史料については、九州大学（九州文化史研究施設『広瀬家文庫仮目録』１-2）および日田関係者（手稿目録あり）によって合計 1 万 5000 件分の整理がなされていたが、本研究開始以前は、なお相当数の史料が未整理のままになっていた。したがって、本研究は、これら未整理史料の整理・目録化を進行させ、史料目録の完成を目指すと共に、掛屋の経済活動と咸宜園の文化活動がもたらす、九州全域にわたるような広域的な社会関係を、政治的、経済的、文化的な諸側面から解明することを目的としたのである。

３．研究の方法

(1)広瀬先賢文庫所蔵未整理史料についての目録作成：最初に、九州大学・日田関係者・東京大学が行なった既存調査結果（目録）の校合と現状把握から作業を開始し、年１回（1 週間）程度の現地調査を実施して、未整理史料の目録作成を進める。

(2)地域ネットワーク研究に必要な史料の撮影とデジタライズ：撮影結果を研究代表者・研究分担者・連携研究者・研究協力者等が共有しやすい環境を構築する。

(3) 広瀬先賢文庫史料に基づく地域ネットワークの研究：研究代表者・研究分担者・連携研究者・研究協力者等を、(a)政治情報研究グループ、(b)経済ネットワーク研究グループ、(c)言説研究グループ、(d)文書構造研究グループに分け、広瀬家を中心とした地域ネットワークの研究を進める。(a)では、広瀬家が持っていた様々なネットワークを通じて、どのような政治情報が入手され、どう活用されていたかを解明する。(b)では、掛屋の諸活動、特に大名貸などで培われた人脈と、そこで取り扱われる情報・知識の特性について解明する。(c)では、咸宜園（広瀬八賢）の持つ文化人ネットワークについて、モノの交通、すなわち書翰往復や書籍貸借などの分析を通じて解明する。(d)では、広瀬先賢文庫史料の前提となった、掛屋広瀬家史料と咸宜園史料との関係を念頭に、史料の現状と戦前からの各段階における整理状況を踏まえ、史料群の内部構造を解明する。

なお、年１回、研究会を開催するほか、最終年度には、論文、史料の人名索引と年譜、史料の紹介・翻刻などの研究編と、先賢文庫史料の目録編からなる研究成果報告書を作成する。

４．研究成果

(1)2006 年度の成果：九州大学・日田関係者・東京大学が行なった広瀬先賢文庫の既存調査結果（目録）の校合と、現状把握から調査・研究を開始した。

その結果、九州大学九州文化史研究施設作成の『広瀬家文庫仮目録』１-2 分と日田関係者整理分が目録化されていることが明らかとなった（約 15000 件分）。

そこで、当年度は、まず本研究にとって課題となる未目録史料の整理・目録化と、地域ネットワーク研究に必要な史料の調査・撮影を実施した。史料の整理数は約 2000 件で、撮影は主として風聞とそれを伝えた書状を中心に行なったところ、広瀬家に入る風説としては、府内藩経由のものが多数であることがわかった。特に長州戦争期には、出兵先の探索方から、直接広瀬久兵衛のところへ書状に同封された風聞が届けられている。久兵衛はこれを日田へ転送し、広瀬源兵衛や広瀬林外のための有力な情報源としていたことが明らかとなった。

一方、既存書簡集（『広瀬淡窓・旭荘書翰集』）の人名索引作りを行なった。この結果、旭荘関係書状は、幕臣羽倉外記との人脈からか、天保～弘化期のいわゆる幕府「開明派」の動静に関わって、貴重な情報を提供していることがわかった。

(2)2007 年度の成果：前年度の調査・研究を踏まえ、①目録番号 10000 台史料の目録データベース化と同 30000 台未整理史料の整理と目録化、②広瀬先賢文庫中の重要書翰（家宝）の撮影、③広瀬先賢文庫中の政治情報関係史料の撮影・解読、を行なった。

①整理・目録化作業は、既存目録のデータ化が終了した。これにより、2006 年度データ化分とあわせ、目録化終了分の史料については、一部を残しデータ化された。未整理史料の整理については、全体の 3 分の 2 を終え、これにより、未整理分全体の整理・目録化の展望を開くことができた。

②広瀬先賢文庫中の重要書翰（家宝）につ

いては、旭荘手東を中心に、幕末期の重要書翰のほとんどを撮影することができた。これらの書翰を翻刻している『広瀬淡窓・旭荘書翰集』は、誤読がまま見られ、そのままでは研究に利用しにくい書翰集であったが、これにより、原典による史料批判が可能となった。

③広瀬先賢文庫中の政治情報関係史料については、久兵衛・林外などに届く当該文書の撮影と読解を行なった。この結果、府内藩役人の書翰に同封され送られてきた風説という、広瀬家による政治情報入手の原型を示す史料がかなり現存することがわかった。

(3)2008 年度の成果：前年度からの継続として、広瀬先賢文庫所蔵の目録番号 30000 台未整理史料の目録化を中心に作業を展開させるとともに、研究参加者各自の問題関心にあわせた史料収集・分析を行なった。

この結果、目録データは、広瀬先賢文庫内のスチールキャビネットに収められている史料に関しては目録化（番号付与・整理・目録作成・データ入力）の作業がほぼ終了した。

また、2008 年 8 月、日田市にて研究会を開催したほか、本年度は研究期間の最終年度となるため、2009 年 3 月、研究編と目録編からなる研究成果報告書を『東京大学史料編纂所研究成果報告書 2008-2』として刊行した。

(4)研究成果報告書の研究編には、広瀬家関係史料を素材に本研究課題に関連するテーマについて考察した 9 編の論文とともに、付録として、『広瀬淡窓・旭荘書翰集』旭荘書翰部分人名索引（暫定版）・『広瀬淡窓・旭荘書翰集』旭荘部分書翰年譜、史料紹介・史料翻刻（広瀬先賢文庫蔵書目録、諸国風説留）を収録した。また、目録編は別冊（535 頁）として刊行した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　10 件）

①梶嶋政司、広瀬家文書に残る安政万延改鋳の大坂町触について、東京大学史料編纂所研究成果報告書 2008-2、5-13 頁、2009 年、査読無

②<u>杉本史子</u>、広瀬先賢文庫の日記と政治情報について、東京大学史料編纂所研究成果報告書 2008-2、14-23 頁、2009 年、査読無

③<u>中野　等</u>、豊後日田・玖珠地方における年貢買替納に関する一考察、東京大学史料編纂所研究成果報告書 2008-2、24-35 頁、2009 年、査読無

④<u>中野　等</u>、広瀬家文書の被整理・調査履歴の検証－過去のある段階における文書群の構造に迫る作業のひとつとして－、東京大学史料編纂所研究成果報告書 2008-2、36-41 頁、2009 年、査読無

⑤<u>箱石　大</u>、維新政府による政治情報伝達制度の創出－日田広瀬家が入手した維新政府情報の分析から－、東京大学史料編纂所研究成果報告書 2008-2、42-60 頁、2009 年、査読無

⑥<u>箱石　大</u>、維新期の日田広瀬家における官版日誌・新聞の需要状況、東京大学史料編纂所研究成果報告書 2008-2、61-72 頁、2009 年、査読無

⑦守友　隆、日田広瀬家における政治情報収集－禁門の変を中心に－、東京大学史料編纂所研究成果報告書 2008-2、73-88 頁、2009 年、査読無

⑧<u>横山伊徳</u>、広瀬旭荘を通してみた幕末の政治文化、東京大学史料編纂所研究成果報告書 2008-2、89-116 頁、2009 年、査読無

⑨吉田洋一、広瀬家の出版事業－広瀬貞治を中心に－、東京大学史料編纂所研究成果報告書 2008-2、117-124 頁、2009 年、査読無

⑩綱川歩美、広瀬先賢文庫蔵書目録、東京大学史料編纂所研究成果報告書 2008-2、162-192 頁、2009 年、査読無

〔学会発表〕（計　1 件）

①<u>箱石　大</u>、戊辰戦争研究のための官版日誌・新聞史料論、明治維新史学会、2009 年 1 月 31 日、明治大学駿河台キャンパス

〔その他〕

○新聞報道

「広瀬資料館に眠る未整理の書簡／数千通の整理進む／幕末と維新、解明へ／東大と九大が共同研究」（『大分合同新聞』2006 年 10 月 3 日朝刊）

○ホームページ

http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/yokoyama/kaken/index.html

６．研究組織

(1)研究代表者

横山　伊徳（YOKOYAMA YOSHINORI）

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：90143536

(2)研究分担者

中野　等（NAKANO HITOSHI）

九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授

研究者番号：10301350

研究者番号：
箱石　大（HAKOISHI HIROSHI）
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：60251477

(3)連携研究者
井上敏幸（INOUE TOSHIYUKI）
佐賀大学・文化教育学部・教授
研究者番号：50046207

梶原良則（KAJIWARA YOSHINORI）
福岡大学・人文学部・教授
研究者番号：20233728

小宮木代良（KOMIYA KIYORA）
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：90186809

杉本史子（SUGIMOTO FUMIKO）
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：10187669

高野信治（TAKANO NOBUHARU）
九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授
研究者番号：90179466

宮崎修多（MIYAZAKI SYUTA）
成城大学・文芸学部・教授
研究者番号：30219761

吉田昌彦（YOSHIDA MASAHIKO）
九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授
研究者番号：10141946